

# 函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース

## 平成 19 年度収録作品概要

A 阿部かおり K 菊地圭子 S 柴村紀代 T 谷暎子

記述内容: 番号 雑誌名 巻号 発行年 冊数 備考

### 1 学友 2 巻 1 号 1914/1/1 1 冊

大日本通信学校の経営する「日本中学校」「大日本高等女学校」「大日本農学校」の受講生のための雑誌。分校は北海道、東北、九州を始め朝鮮、大連、上海など 640 余ヶ所になるという。編集発行人の四方内治は大日本高等女学校の校長で立憲帝国青年党総理。「大言海」の著者大槻文彦が文を寄せている。(S)

### 2 キンダーブック 1 集 1 編～14 集 10 編 1927/11/1～1941/1/27 69 冊

1926 (昭和元) 年の「幼稚園令」で保育項目に「観察」が付け加えられたことがきっかけとなり、翌 27 年にフレーベル館から発行された絵雑誌。毎号一つのテーマを取り上げ、浜田廣介などの童話作家、川上四郎などの童画家を起用し、観察教材としての写実性と絵雑誌としての芸術性を兼ね備え、当時から保育現場で広く支持され続けており、2007 年で創刊 80 周年を迎えた。(A)

### 3 金の船 6 巻 10 号～10 巻 2 号 1924/10/1～1928/2/1 12 冊

### 4 金の星 5 巻 4 号～11 巻 6 号 1923/4/1～1929/6/1 22 冊

「金の船」は 1919 (大正 8) 年 11 月創刊。発行人横山寿篤、編集人斎藤佐次郎、発行所キンノツノ社による童話・童謡雑誌。その後、「キンノツノ社に托してを つては、到底安心して雑誌を発行いたす事ができない事情」(「金の星」22 年 6 月号) となり、新たに斎藤を発行人とした「金の星」を発行、翌年には社名を金の星社に変更した。1929 年 7 月号 (第 11 巻 7 号) をもって終刊。一方、横山が発行人の「金の船」も継続され、のちに発行所が資文堂書店に変わった。(A)

### 5 コドモノクニ 1 巻 1 号～16 巻 2 号 1922/1/1～1937/2/1 134 冊

1922 (大正 11) 年 1 月に創刊された、戦前の日本を代表する幼児向けの絵雑誌である。挿画には岡本帰一、武井武雄、清水良雄など、執筆には野口雨情、北原白秋、浜田弘介といった顔ぶれがみられ、新進童画家たちにとっての登竜門的雑誌でもあった。(A)

### 6 サイエンス 1 巻 1 号～3 巻 4 号 1932/1～1934/4 6 冊

国民科学普及会発行の月刊科学雑誌。終刊は不明。創刊当時は B5 判だが、3 巻は菊判に縮小された。「科学知識の徹底的普及化を念願」して企画され、科学読み物を中心に児童文学作

家の北村壽夫、詩人の北園克衛による童話や海外ニュース、映画物語、漫画が掲載されていた。表紙絵・蒔谷虹兒、広瀬貫川ほか。(K)

#### **7 小学文芸 2巻2号 1927/2/1 1冊**

この1冊は昭和9年函館大火の際の同情図書の1冊として、台北市の児童からの寄贈。表紙は初山滋で2月らしく梅の木にオス・メスの2羽の鳥がしゃれた帽子をかぶってとまっている、図案化された絵である。目次には野口雨情の童謡と小川未明の童話がひととき大きく太い活字で書かれている。その他「少女小説」「童話」「抒情詩物語」などと作品が細かく分けられている。時事的な「小学新聞」欄には天皇崩御、改元などの言葉が並んでいる。(S)

#### **8 小国民(学齡館) 7年3号~8年3号 1895/2/1~1896/2/1 3冊**

#### **9 少国民(北隆館) 9年9号 1897/5/1 1冊**

幼年を対象にした児童雑誌で1889(明治22)年7月の創刊で、1902(明治35)年12月の終刊。

1895(明治28)年11号(第5年20号)から「少国民」と改題。学齡館の経営悪化で、1896(明治29)年12月号(第8年第24号)から北隆館の発行となる。奥付などには掲載されていないが、作家・石井研堂が編集に関わっていたことで知られる。読み物などは口語体を使っていること、口絵や挿絵にも力を注いだこと、投稿には丁寧な添削指導をしていたのが特色と言われる。(T)

#### **10 少国民(東京浩洋社) 1巻1号~2巻3号 1917/6/10~1918/3/1 6冊**

1916(大正6)年7月の創刊、終刊は不明。発行編集人は塚脇十三。読み物が大半を占めるが冒険、科学、滑稽、少年小説など小説が多い。他に実話、講談、相撲、水泳などのスポーツ、気象などの科学記事などを掲載。少年文、手紙文、短歌、俳句など投稿欄にも力をいれている。少年文の選評は芦田恵之助(東京史判教官)で、「模範作文添削実例」が掲載されている。(T)

#### **11 少女の花 2巻1号 1923/1/1 1冊**

1922(大正11)年8月創刊、1925(大正14)年9月終刊。全37冊。「飛行少年」を発行している日本飛行研究会の発行。編集人は青木孝、室野素月の表紙絵の少女雑誌。函館所蔵の1冊には与謝野晶子の短歌やパリ滞在中の島崎藤村からの便りや小川未明、徳永寿美子の童話を掲載。童謡では本居長世、野口雨情が載っている。(S)

#### **12 少年界 1巻1号~12巻11号 1902/2/11~1913/11/1 48冊**

博文館の「少年世界」に対抗し発刊された児童雑誌。姉妹誌に「少女界」がある。創刊号の発行人は大野富士松、編集人岡本常次郎、発行所金港堂書籍、表紙、口絵に水野年方、著者には石井研堂、森桂園、大和田建樹らの名前がある。投稿内容は「少年界」(少年修養談)、「譚海」(少年お伽噺)、「学問」(理科、地理、歴史)、「雑録」(短編雑文、新体詩など)、「なぐさみ」(落語、一口噺、なぞなぞ、ゑさがし、ポンチ画、少年遊戯)などを募集している。(S)

### 13 少年グラフ 1巻1号～1巻2号 1926/1/1～1926/2/1 2冊

『科学画報』発行の新光社による刊行。「外国少年雑誌を参考に」岡部長節が編集。ハーフトーンの世界写真ニュース、漫画、写真入り誌上映画、投稿写真を多く掲載。スポーツ、歴史物語、工作解説、犯罪小説、科学読みものなど内容は幅広く、ほとんどの記事に説明を兼ねた挿絵や写真が添えられている。賛助員に巖谷小波、後藤新平の名が連なっている。(K)

### 14 少年兵 25号 1928/8/1 1冊

東京にあった救世軍日本本営青年部による広報誌。新聞記者から救世軍士官となった秋元巳太郎が編集・発行。菊判で新聞形態の8ページ、4銭。毎月1日発行の記載がある。各支部の活動報告と活動予定、聖書に基づく教訓的物語やクイズ、本営の人事異動情報の他に読者からの投稿欄がある。(K)

### 15 少年野球 9巻1号～10巻4号 1928/1/1～1929/6/25 10冊

A5版、24頁、素朴な一色刷。発行所は1920年(大正9)に結成された(財)大日本少年野球協会。函館図書館の所蔵は9巻1号からだが、大日本少年野球協会沿革趣意書によれば、大正9年第1回全国大会開催後、同年に機関誌も発行されたと推測される。財団法人になったのは大正14年とある。日本全国はもとより台湾、朝鮮、満州、上海、樺太にも支部を持つ。内容は、各地の大会報告や、「公式少年野球規則」が連載され、一流野球選手の紹介記事、昭和天皇の弟宮の澄宮親王殿下の野球観戦記や御幼児野球御練習中の写真が大きく報じられている。各地の野球大会や全国大会の報告が中心で、野球小説のような読み物がないのが珍しいと言える。(S)

### 16 後志學の友 2巻6号(表紙のみ)～2巻7号 1911/9/15～1911/10/15 2冊

後志学の友会(北海道倶知安)の発行で、1910年の創刊と推測。第2巻9号・1911年12月号までの発行を確かめたが、終刊は不明。編集兼発行者は熊谷芳太郎で、「児童諸君の知能を戦はせんが爲に」発刊したという。菊判25頁ほどの投稿雑誌で、尋常3年～高等科2年を対象で学年ごとの「筆戦場」を設けている。投稿者の半数は倶知安と近隣町村の子どもたち、半数は「内地からの遠征軍」である東京の子どもたちである。表紙絵、口絵なども投稿作品である。(T)

### 17 新少年 1巻2号～4巻8号 1914/12/1～1917/8/1 15冊

1巻2号の発行所は二舎書房、2巻5号は新少年社、3巻3号以降は平和出版社。二舎書房と新少年社の発行者・編集者は小池則之で同じであり、月1回発行、定価も6銭5厘。「新少年」は他にも同一書名誌があり、新少年社が1896年1月から半月刊で出していた雑誌と同一かどうか不明。

平和出版社の「新少年」は編集人の富岡直方が実業之日本社を退社後発行。主幹は富岡鼓川が務め、松岡白虹、白鳥天葉、藤澤紫浪らが執筆。菊判、112頁、男児が好む冒険小説などを掲載した。(S)

#### 18 仙台 愛国少年 2号 1934/3/5 1冊

仙台愛国少年会連盟の機関誌で年1回の発行。創刊は1933年3月で、1939年2月発行の7号まで確認できたが終刊は不明。仙台愛国少年会連盟は全国教化総動員と国体明徴運動が展開されていた1932年に結成された。総裁は仙台市長、会員は市内19小学校の生徒12079人。2号には「仙台市愛国少年会綱領」が掲げられ、「満州事変の思い出二、三」「帝国海軍の話」などの読み物、総頁数・80頁の半分を占める小学生の投稿作文、他に各校少年会の活動報告などが掲載されている。(T)

#### 19 大正の友・大正の友少年少女 1巻2号～1巻4号 1915/2/1～1915/5/1 3冊

創刊当時の誌名は「大正の友」、4号より「大正の友少年少女」と改題された。編集兼発行人は鈴木江南。発行所は長久社。挿絵は川瀬巴水とある。内容は少女小説、お伽講話、処世実話など娯楽的な内容が多い。長久社の出版物としては『通俗講演常識大観』(巖谷季雄・加藤咄堂著)や『モンガタキリヌキ』『カミオリモノ』など小学生向きの切り紙の実用書などを出している。(S)

#### 20 ツバメノウチ 4巻6号～6巻3号 1932/6/20～1934/3/20 22冊

1932(昭和7)年に「園と園児と家庭をつなぎ、幼児の発達を援助する」という主旨で、キンダーブックの付録として創刊された絵雑誌。形態は、キンダーブックは横長であるのに対し、ツバメノウチは縦長である。童謡、漫画などが、初山滋、武井武雄といった童画家の挿絵によって描かれている。また母親へ向けた情報も掲載されており、子ども・大人ともに学べる雑誌となっている。(A)

#### 21 童謡 5号 1924/6/1 1冊

1922年1月創刊、26年3月休刊。1933年5月復刊、同年6月号まで確認、終刊不明と「日本児童文学大事典」に記載あり。表紙は加藤まさをの絵で、石版5色刷。野口雨情、本居長世、三木露風若山牧水らが童謡を載せている。会員・会友の創作童謡や藤澤衛彦の評論「日本童謡論」や童謡研究が載っている。野口雨情の「七つの子」の本居長世曲の他に振り付けが写真入りで紹介されている。清水かつらの「靴が鳴る」は謡と振り付けのみ。これらは童謡遊戯と称された。(S)

#### 22 日曜世界 6巻11号 1913/10/25 1冊

大阪の日曜世界社の発行、編集発行人は西坂保治。日曜世界社はキリスト教会の日曜学校備品、カード類、「聖書昔ばなし」などの刊行・販売を行っていた。『日曜世界』は、教会の日曜学校の子どもたちを対象にした月刊雑誌。創刊、終刊年月は不明だが、3巻1号の発行が1909年12月なので1907年の創刊と推測、1925年9月号まで確認。6巻11号は「クリスマスのしたく」の特別号。中心的な内容は生誕劇の台本で、他に日曜学校便り、読者欄などがある。(T)

#### 23 光の子 1巻2号～3巻2号 1932/11/1～1934/2/1 13冊

「母と教師と子供の童話雑誌」と表紙にあるが、基督教童話協会の機関誌として、基督教布

教のための雑誌である。編集者は上澤謙二。内容は「少年サムエル」(松本貞夫)、「サムソンのうた」(宮川勇)など聖書に由来した話や、「明治殉教物語」(上澤謙二)など日本の基督教の歴史にも取材している。幼児向きの「赤ちゃん囁」や「幼児ばなし」の他、青年向けの聖書読本、海外名著紹介、基督教童話編など幅広い年齢層に向けて作られている。(S)

#### **24 飛行少年 1巻7号～4巻5号 1915/7/1～1918/5/1 11冊**

1913年(大正2)に創立された日本飛行研究会発行。「剛健にして勇壮なる軍国の気風を鼓吹し、以て戦勝国少年の今後到处せんとする途を教えんとする。」目的で月刊誌として創刊された。10銭。終刊時期は不明だが、第11巻3号(1925年)まで確認。主筆は宮崎一雨で、詩人の兒玉花外、劇作家の仲木貞一らが冒険小説、探偵小説、熱血小説などの読み物を執筆。小品文、和歌、俳句の投稿欄から読者は小学校高学年から中学生と思われる。(K)

#### **25 フレンド 35号 1910/6/1 1冊**

日本最初の職業漫画家である北澤楽天が編集した児童雑誌で有楽社の発行。創刊当時は月刊誌であったが、1910年(明治43)より毎月2回発行。第35号は「西洋の昔話號」として抄訳「ジャックと豆の木」「あかずきん」、ロシア童話を翻案にした「熊のお家」を掲載。楽天によると思われる挿絵が添えられた絵本形式。(K)

#### **26 防長少年 1巻1号～4巻1号 1931/4/1～1934/1/1 12冊**

発行所は山口県の防長少年会。創刊号には「明治維新このかた、防長二ヶ国が維新の原動力であり、山口県の少年諸君はこの二州を相続すべき方たちであり、そこで郷土色のあふれたこの雑誌を創刊した旨が書かれている。グラビアには山口県の生んだ伊藤博文をはじめ五人の総理大臣の写真が並ぶ。内容には松下村塾高杉晋作などの逸話や郷土伝説など郷土色が強いが、2巻6号から表紙は当時の児童雑誌と同じく少年少女の絵が並ぶ。(T)

#### **27 理化少年 1巻1号～1巻6号 1918/1/1～1918/5/1 6冊**

三浦覺玄が主幹となって日本少年理化学会から発行された最初の月刊児童科学雑誌。菊判の体裁で表紙絵は石井柏亭。「一般的科学知識の養成」を目的に創刊された。読者対象は尋常高等小学校の高学年や中学生と思われる。創刊号と第1巻第2号は全編理化学および数学に関する読み物で構成され、挿絵は殆どない。第3号には読者投稿による研究欄、読者欄が設けられた。理科教育の徹底を提唱していた江見節夫、後に電気学校教授になった大河内治ら教育関係者が執筆している。第5巻第8号を発行後休刊したが終刊不明。(K)

#### **28 良友 2号～8巻5号 1916/1/4～1923/5/1 2冊**

表紙は田中良、河目悌二、口絵は吉野尚方。内容はお伽噺、ポンチ、訓話、幼年小説、滑稽書ばなし、幼年冒険など多彩な小学校低学年向け雑誌。執筆者は内海月杖、高島平三郎、絵話岡本一平、童謡に三木露風、山田耕筰の名前が見える。お伽噺は北村壽夫、幼年歴史と題して藤澤衛彦の名もある。童謡の選者は三木露風。2号の発行兼編集人は足立喬、浜田広介が一時編集に関わるが、1920年に退社、23年の編集は社主の木元平太郎に戻っている。(S)

**29 若草 1巻1号 1925/10/1 1冊**

1925（大正14）年10月、藤村耕一編集で宝文館より創刊された。43年12月戦時統合により一時休刊したが、46年3月に再刊し50年2月号で廃刊となる。表紙は竹久夢二、東郷青児など。「令女界」の姉妹雑誌として中学生女子を対象にした雑誌であったが、次第に女性に限らず若者に向けた内容となっていた。（A）

**合計冊数 408冊**